

## プロローグ

たった16の動詞で自由に英語が話せる、そのワケ  
「よく働く動詞」に秘密が隠されている

### ●動詞に対する日本人の錯覚

多くの人には日本語の動詞に対して英語の単語がひとつひとつ対応するものと考えている。例えば、「買う」はbuyと覚えているが、店などで「これを買います、これをいただきます」といった表現では、I will take this.とtakeが使われる。わざわざI will buy this.と言うのはあまりにもそのまま過ぎる。店に入った人のほとんどが買い物客であって、彼らが商品を買うのは当たり前。買い物客はtakeを使って商品を選ぶことになる。

このような例は、あげたらキリがない。食べたり飲んだりするにはeatやdrinkを使わなくてもhaveですませたり、書くはwriteではなく、Put it down.が使われたりする。

どうやら、日本人が英語音痴だと指摘される原因の一つに、日本語の動詞に英語の動詞がひとつひとつ対応していると錯覚していることにあるのではないだろうか。

確かに、buy=「買う」、eat=「食べる」、drink=「飲む」、write=「書く」と覚えることも便利だし必要なこともある。しかしそれはそれだけのもので、特に彼らネイティブの日常的な会話ではまったく異なった基準で動詞が使われていることにそろそろ気づくべきだ。

### ●「異なった基準で動詞が使われる」ということ

さて、「異なった基準で動詞が使われる」ということだが、英語にはbuy、eat,drinkのようにそのままの具体的な動作を表す動詞と行為の外形をなぞらせるような純粋に動作だけを表す動詞があることを知ってほしい。

#### (そのままの行為を表す動詞の例)

buy, eat, drink, write, wear, remove, etc.

#### (行為の外形をなぞらせるような純粋に動作だけを表す動詞の例)

take, have, get, put, keep, etc.

英語で表現する場合、先にあげた「買う」というそのままの行為を表すbuy、一方行為の外形をなぞらせるような動詞takeがその例だ。

あるいは私たちは、服などを「着る」「脱ぐ」にwearやremoveを思い浮かべるだろうが、これらは「具体的な動作を表す動詞」であり、一方「行為の外形を表す動詞」であるputやtakeで「着る」「脱ぐ」をput onやtake offと表現したり、あるいは同じ「服を脱ぐ」ということでget undressedが使われたりする。あるいは「靴は脱がなくてもけっこうです」といったkeepを使った次のような表現もある。

You mayは、「あなたは～してよろしい」、keep your shoes onは、「あなたの靴を密着・継続の状態に維持する」ということだ

You may **keep your shoes on.**

## ●「具体的な動作を表す動詞」の落とし穴

「具体的な動作を表す動詞」には、理解しやすいようで、日本人にとってその使い方がむずかしく、使い方に危険がまわりついている。

例えば、「薬を飲む」ということで、「飲む」はdrinkだとdrink medicineと表現する人が多い。ところがdrinkは、通例「液体を容器から飲む」という意味で、液体の薬でもまた錠剤などを「飲む」という場合にはtakeを使ってtake medicineと表現しなければならない。

もちろんこのような例は、drinkだけではない。

もう一つ例をあげると、eatも「食べる」という意味で覚えていると思うが、「スープを飲む」という場合は、eat soupであり、drink soupとは表現しない。これも「行為の外形を表す動詞」を使って、単にhave soupと表現できる。

## ●まずは「よく働く動詞」を身につけなさい

「よく働く動詞」というのは、行為の外形をなぞらせるような純粋に動作だけを表す動詞のことだ。私たちはこのような動詞を徹底的に身につけるべきなのだ。それをmakeは「作る」、getは「得る」、giveは「与える」、putは「置く」、takeは「取る、連れていく」、keepは「保つ」などと、一語一語に安易な訳語をセットして覚えてしまっている。英語の学習で最も大切で決して欠けてはならないのはこの「よく働く動詞」を徹底的に身につけることなのだ。

また多くの人が「自由に英会話が話せる」には、なるべく多くの単語を覚えることが欠かせないと考えているが、これはある意味で間違っている。

イギリスの言語学者、C. K. Ogden (1889-1957)は、たった850語が20,000語に相当する働きをすとし、Basic Englishというものを提唱した。この内動詞だけに注目すれば、動詞はたった16だ。彼は無制限な語彙を使わなくても、英語は一定の範囲の基礎語の組み合わせで多様な意味を表し、かつ英語にはそのようなことばを好んで使う傾向があった。

be, have, do, make, get, give, put, take, keep, let,  
go, come, seem, say, see, send

## ●自分の言いたいことは直接英語で

自分が言いたいことを日本語に置き換え、それに応じる動詞を思い浮かべようとするのはとてつもない遠回りをしていることになる。あるいは日本語の発想で処理することはむしろ危険なものだと言える。先にあげた「靴は脱がなくてもけっこうです」が、単にKeep your shoes on.ですませることができる英語の発想を身につけるべきなのだ。

むしろ英語で何かを表現したいときには、日本語の意味に当たる英語の動詞が何かと考えるよりも、「よく働く動詞」の内の何を使うかと考える方が、はるかに効率がいいと言えるだろう。

場面に応じた自由な英会話をする場合には、「よく働く動詞」の守備範囲と応用範囲を徹底的に学ぶ必要がある。

誤解してもらっては困るが、私は動詞は16だけで十分だと言っているのではない。やはり

「そのままの行為を表す動詞」も使うことが欠かせないこともある。しかしまずは「よく働く動詞」をきちんと身につけて、いわばありあわせの英語でしのがなければならないというのは、私たちが英語世界に身を投じる第一歩となるべきだと考える。またこれが基礎となることで、他の動詞も使いこなすように展開することが英語を身につける最も効率的な学習法となるのだ。

## 【1】誰も教えなかった「よく働く動詞」

### ●動詞はフレーズとして覚えなければ役に立たない

ネイティブの子供たちにとって日常生活の中で蓄えていくのは一つ一つの単語ではなく、動詞を含めたフレーズだ。実際、バイリンガルの友人に聞くと、彼は動詞を聞けば次になんという名詞が続くのか予想できると、と言う。つまり彼らの感覚では、動詞とそれに続く目的語や補語が一体化しているということだ。

ところが、私たちと言えば、単語は独立して覚える習慣が身についている。「買う」はbuy、「食べる」はeatとといった具合だ。

ところが、私たち日本人にとって単に動詞を単体ではなく、動詞フレーズとして丸暗記する必要はネイティブより増して大きい。

### ●日本語の発想から抜け出すために

まず、一つに語順の問題がある。

英語を何年も学んだものが、何かを「ゲットする」「メイクする」「オープンする」、「ギブアップする」「テイクアウトする」と表現したり、何か「ブレイクする」などと表現したりしている。テレビなどでこのような表現を耳にすると、私は日本の英語教育とは何なのかと疑ってしまう。

実は、このようなことが起こるのは、日本語の発想では目的語や補語をまず訳し、動詞に帰るといいうゆる「後戻り訳」をしなければならないことにある。しかしこれは英語の単語を日本語の発想で使っているのに過ぎなく、英語の発想とは無縁なものだ。「何かをゲットする」は日本語の発想に過ぎなく、英語の発想ではget somethingやget someoneなのだ。ただこれだけのことで、英語の発想に身を置くことになる。

(日本語の発想)	(英語の発想)
若い女性をgetする	get a young girl
よくなる	get better

### ●日本語の発想で立ち向かうべきではない

もう一つの問題は、日本語は動詞表現が豊かな言語だということだ。

当たり前なことだが日本語と英語はまったく異なる言語。多くの方は、日本語の発想から英語をとらえようとしている。これがいかに英語学習を妨げているかほとんどの人は気づいていない。

例えば、以下の日本語と英文を比べていただきたい。前段の動詞フレーズの意味は、「する」が共通しているが、動詞はまるで異なっている。

買い物をする	do the shopping
デートをする	have a date
決定する	make a decision
やけどをする	get a burn

一方、下にあげものはすべて動詞のgetが使われているが、その意味は「折る」「殴られる」「ひく」「稼ぐ」などとなっている。

腕を折る	get a broken arm
殴られる	get a blow
風邪をひく	get a cold
大金を稼ぐ	get a lot of money

多くの方は、日本語の発想から、様々な表現における「する」にはどんな動詞を使うか、あるいは「腕を折る」「殴られる」「風邪をひく」「大金を稼ぐ」など、「折る」「殴られる」「する」「ひく」に当たる英語の動詞は何かと考え込むことが多いと思う。

これが英語で表現する場合に手かせ足かせとなっている。

ところが、英語の発想に基づいて、それぞれの動詞の守備範囲や応用範囲をきちんと整理しめにつけることができたならあなたの英語表現はまったく局面が異なることになる。これが「英語発想に身を置く」ということにほかならない。

### ●実際に使える語彙力を増す **Holistic Approach** とは

先にも述べたが、ネイティブの子供たちは幼い頃からことばをフレーズとして蓄えていく。一方私たちは彼らと同じ体験をすることは不可能だ。

Holistic Approachは、これは部分部分ではなく全体的にとらえるアプローチのことだ。この教材はそれに基づいて製作されているが、これは日本語の発想からではなく、例えば、「getするものは何か」とget something, get someoneのフレーズをできるだけ多く登場させている。

これによって、日本語の発想からではなく、英語の発想で「よく働く動詞」の守備範囲と応用範囲をしっかりと身につけることができる。

「ことば」の学習というものは、なるべく多くの用例を体験し、それによって自分なりのイメージを作り上げる作業が大切なのだ。

「何かをゲット」の発想ではなく、get somethingの発想を身につけるといつの間にか、日本語が消え、知らず知らずの間に英語の発想を身につけている自分を発見することができるだろう。

## 【2】動詞を軽くするのが英会話の基本

### ●動詞を軽くすること

そもそも16の動詞で英語表現ができるというOgden氏の提唱は、どんな表現もたった16の動詞しか使わないということだ。つまりなるべく「よく働く動詞」を使って表現するというのが「動詞を軽くする」ということだ。

したがってこの教材そのものが、「動詞を軽くする表現」ばかりを集めたものとも言えるが、その一端を例文で示してみることにする。

以下の例文はすべてbe動詞が使われている。一方、学校時代に学んだ「です、いる、ある」の意味ではどうていつかみきれないくらい日本語訳では様々な意味で使われている。もちろんHe is a good swimmer.という文を他の「具体的な動作を表す」動詞swimを使ってHe swims well.とも表現できるが、これだと「動詞が重すぎる」。

例えば、過去形や過去分詞で表現する場合、その変化も大変だ。それがbe動詞の変化だけを覚えていれば表現はより簡単になり、しかも動詞を軽くした表現の方が**英語らしい表現**となる。

それにもう一つOgden氏は、動詞を軽くした分、その名詞に重点が置かれるが、その名詞は動詞を変化させて使えと指摘している。

動詞	名詞	動詞	名詞
read	reader	run	runner
work	worker	write	writer
speak	speaker	hate	hater
love	lover	listen	listener
buy	buyer	drink	drinker
eat	eater	talk	talker

この場合、注意したいのはこれらの文の意味に「いつもそうしている、そうする人だ」といった意味も含まれていることだ。

We are **hard workers**.

私たちはいつも熱心に働きます

We **work hard**.

私たちはいつも熱心に働きます

上の例文が、ネイティブが好んで使う表現であり、下の例文が私たち日本人が好む英文ということになる。

### ●<have+a+行為の名詞>などの形

「飲む」はdrink、「見る」はlook、「洗う」はwash、しかしネイティブはhave a drink, have a look, give a washといった表現を好む。

他に、「飲みなさい!」とか、「見なさい!」は、Drink!でも、Look!でもいい。もちろんそう表現するのも間違っていない。しかしそれをHave a drink!とかHave a look!と表現するのは、一つにはそのような表現はとても英語ということばのリズムに乗った「英語らし

い表現」であるし、もう一つとても大切なことは、先に述べたように「動詞を軽くする」という目的にもかなうということだ。

実は、ここが日本人には盲点になっているが、英語は「名詞的言語」なんだ。逆に日本語は「動詞的言語」だと言われている。何度も言っているように日本人はすぐに「動詞は何だ」と考えてしまう。

動詞を軽くした表現はとても英語らしい表現であるし、私達ネイティブでないものも動詞変化を覚えなくてもいい。また副詞ではなく形容詞で表現できる。この場合、longをshortにすると、「ちょっと話をした」ということになる。

I <b>talked long</b> .	longは副詞
私は長い間話をした	
I <b>had a long talk</b> .	longは形容詞
私は長い間話をした	
have a date	デートする
have a dream	夢を見る
have a break	休憩する、一服する
have a headache	頭痛がする
have a slight cold	風邪気味だ
take a shower	シャワーを浴びる
take care	注意する
take a seat	席に着く、座る
take trains	列車に乗り継ぐ
take a bribe	わいろを受け取る
make an offer	申し出をする
make a joke	冗談を言う
make a wish	願い事をする
make a bed	ベッドメイキングをする
make a reservation	予約をする
give one's opinion	意見を述べる
give a good boil	よく煮る
give a brush	ブラシをかける
give a flavor	味を付ける
give a cry	叫び声をあげる

### 【3】誰も教えなかった英会話学習法

#### ●口語表現に人間のことばとしての英語の生の姿が!

ネイティブの生の会話には、以下のような省略表現が使われる。もちろんこのような表現を英語を母国語としない私たちがそのままをすることは問題だが、ここに私たちが学校で学んだことがない英語の生きた姿がある。

まず、( )内の語を省略して表現していただきたい。もちろんすべて上げ調子で表現することは言うまでもない。

(Do you) **take a shower** every day?

毎日、シャワーを浴びるの?

(Did you) **take a shower** yesterday?

昨日、シャワーを浴びたの?

**Take a shower.**\*命令口調

シャワーを浴びなさい

Will you **take a shower**?

(これから)シャワーを浴びますか?

(Do you) want to **take a shower**?

(これから)シャワーを浴びたいの?

(Are you) **taking a shower** now?

今シャワーを浴びてるの?

(Have you) **taken a shower** yet?

もうシャワーを浴びたの?

あるいは、口語では、学校英語では決して登場しない次のような表現もあることを知ってほしい。いずれも相手に問う表現なので、上げ調子であることは言うまでもない。

(You) **take a shower** every day?

(You) **took a shower** yesterday?

(You) want to **take a shower**?

(You are) **taking a shower** now?

(You have) **taken a shower** yet?

#### ●ネイティブの子供には、「シャワーを浴びる」という情景が頭に浮かぶ

ここには、take a showerという動詞フレーズが、taking a shower, taken a showerなどと動詞の形を変えてはいるが、少なくともネイティブの子供にとっては、基本的には

「シャワーを浴びる」という行為や状態を頭に思い浮かべることができるということだ。残念ながら、私たちはこんな動詞フレーズそのものだけで、十分その意図を通じさせてしまう英語の生の姿を教えてもらうことはなかった。

YouやDo you、あるいはDid youが省略されていても、それが対話者間であれば、それが自

分のことであったり、every dayという語句で現在の事実・習慣、あるいはyesterdayという語句で過去の事実を問われているということを知ることができる。

### ●私たちの英語学習に根本的に欠けていたこと

私たちが受けた英語教育では、「文法がわからないと英語は話せない」と言われ続けてきた。しかし文法という観点とはまったく別の英語の姿がここにある。これが文法ではない、ネイティブが自然に身につけている英語の発想なのだ。

今までに登場した英文にもう一度確認してほしい。これらの文には黒文字部分と青文字部分とに区分されている。彼らは、この組み合わせを使って英語を操っているのだ。

あるいは、以下にあげた英文は単にDoをDon't、DidをDidn't、WillをWon'tなどに変化させただけだ。英語の発想を身につけるといとも簡単に場面に応じた表現ができるということを確認していただければと思う。

Don't you **take a shower** every day?

毎日、シャワーを浴びないの？

Didn't you **take a shower** yesterday?

昨日、シャワーを浴びなかったの？

Won't you **take a shower**?

(これから)シャワーを浴びないの？

Don't you want to **take a shower**?

(これから)シャワーを浴びたくないの？

Aren't you **taking a shower** now?

今シャワーを浴びてないの？

Haven't you **taken a shower** yet?

まだシャワーを浴びてないの？

黒文字部分と青文字部分は、共にフレーズ(意味ある単位)だ。意味ある単位であるから、独立した意味があるし、独立した働きをする。加えて、意味ある単位だからこそ私たちもそれを覚えることができる。英会話学習は学習を進めていく段階で、これらのフレーズを別々に確実に定着、蓄積していくものでなくてはならない。

これら主体と意志や欲求などを表すフレーズを私はファンクションフレーズと名づけている。

## 【4】リスニングが格段に上達する英会話

### ●リスニングは、話された順に理解すること

日本語は、話されたフレーズを理解し、その結論は文尾に持ち越される言語だ。だから例えば、「私たちは 機械を動き始めさせることができなかった」ということを言われたら、「できたか、できなかったか」という結論は最後まで聞かなければならない。

一方、英語の発想は、まず「結論ありき」であり、「私たちはできなかったんだよ」と宣言し、そのできなかった行為や状態は後続くことになる。

したがって、英語をリスニングする場合はこの英語の発想を十分知っておくべきだし、その学習もその発想にしたがったものになることが不可欠だ。

We did not manage to **get the machine running**.

私たちは 機械を動き始めさせることができなかった

It's nice to **have my daughter living next door**.

娘に隣に住んでもらってありがたい

I'm sorry to **have kept you waiting so long**.

長いことお待たせしてすみません

つまり、We did not manage to=「私たちはできなかったんだ」、It's nice to=「ありがたいね」、I'm sorry to=「すみませんね」といったフレーズの意味をまずとらえ、その行為や状態に耳を傾けなければならない。

この教材では、この学習のために以下のような工夫をしている。

▲の右側に、マウスを当てていただき、英語の発想を身につけてください。

▲We did not manage to get the machine running.

私たちは 機械を動き始めさせることができなかった

▲It's nice to have my daughter living next door.

娘に隣に住んでもらってありがたい

▲I'm sorry to have kept you waiting so long.

長いことお待たせしてすみません

## 【5】英語を自由に話すためのファンクションメソッド5コマ発想法

### ●5つの動詞フレーズの使い方

最初に確認していただきたいのは、フレーズとは「意味ある単位」のことであり、動詞フレーズとは動詞が他のことばと結びついて意味ある単位ということになる。この点において「単なる動詞の変化」ではないことに注意してほしい。

#### (1) 原形動詞フレーズを使って (to) do it

原形動詞フレーズとは、「動詞の原形で始まるフレーズ」である。

Do it! 「それをしなさい!」と誰かに言われたら、その行為を理解していたらその行為をしようとする。

一方、次のように相手に求められた場合はどうだろうか。

You should **do it**.

あなたはそれをすべきです

この場合も、言われた人は現実に「それをしていたり」「それをしていた」ということではない。

動詞の原形で始まるフレーズを、原形動詞フレーズと言い、これを使う場合は、現在そうであるとか、過去にそうであったということではなく、抽象的な、あるいは「絵に描かれたような」行為を表す。

「絵に描かれたような」状態という説明は、わかりにくいと思うが、例えば、a catとえば、ネコを思い浮かべ、あるいはa dogはイヌを思い浮かべる。これと同じようにdo itとえば、「それをする行為」を思い浮かべるということを示す。

この原形動詞フレーズを伴う場合は、情緒動詞で導かれる場合、あるいはdo, does, didなど否定や疑問を表す場合、あるいはtoが動詞フレーズを導く場合などに使われる。

\*情緒動詞とは、will, would, shall, should, may, might, must, can, couldなど教育文法でいうところに助動詞のこと。

I will **do it**.

私は(これから)それをするよ

\*「toが動詞フレーズを導く場合」というのは、教育文法でいうtoが不定詞を導くという場合のこと。

You have to **do it**.

あなたはそれをしなきゃ

また、ここで注意していただきたいのは、情緒動詞のwillとshallだ。これらを使う場合を未来形と言われるが、「未来」の意味を表すと言っても、他の情緒動詞も、あるいは「到達点」を表すto+原形動詞フレーズ(不定詞のこと)もある意味で「未来の意味」を含んでいるとも言える。例えば、このことは「~するべきだ」「~するかもしれない」「~しなきゃ」といった意味からも理解できると思う。

## (2) ing形動詞フレーズフレーズを使って doing it

do動詞の~ing形はdoingだ。このdoingで始まるフレーズを~ing形動詞フレーズと言い、意味は、「~しながら」や「~しながらのこと」といった継続的な状態を表す。

またこれがbe動詞と結びつき、この「~しながらの存在」との意味になる場合、進行形と言い、文の時制は前のbe動詞の時制によって決定される。

I am **doing it**. 現在進行形

私は(今)それをしています

I was **doing it**. 過去進行形

私は(その時)それをしていました

一方、「~しながらのこと」と訳す場合は、名詞的な意味となり、下の例文のように動詞の目的語になったり、前置詞の目的語(フレーズ)として使われる。

I hate **doing it**. 動名詞

私はそれをするのはいやだ

I am sorry for **do ing it**. 動名詞

それをしてごめんなさい

## (3) ed形動詞フレーズフレーズを使って done it

do動詞の~ed形はdoneだ。このdoneで始まるフレーズを~ed形動詞フレーズと言い、意味は、「~したこと」といった過去の行為を表す。

この場合have,hasを使ったものを現在完了形と言う。この場合、haveは「有する」という意味で、現在において、「過去のこと」を「有する」という意味となる。

I have ever **done it**. 現在完了形

私は今までそれをしたことがあります

He[She] has ever **done it**.

彼[女]は今までそれをしたことがあります。

\* (過去において)「それをしたことを(現在において)有する」という意味。

## (4) 現在形動詞フレーズフレーズを使って do(es) it

動詞の現在形で始まるフレーズを現在形動詞フレーズと言う。

この場合の意味は、現在の事実や習慣を表すことになる。

I always **do it**.

私はいつもそれをします

You always **do it**.

あなたはいつもそれをしますね

He[She] always **does it**.

彼[女]はいつもそれをします

(5) 過去形動詞フレーズを使って did it

動詞の過去形で始まるフレーズを過去形動詞フレーズ言う。

この場合の意味は、過去の一時点の事実や習慣を表すことになりる。

I did it.

私はそれをしました

He[She] did it.

彼[女]はそれをしました

以上、(4)と(5)は、動詞がそのまま現在形や過去形を表すので、時制を表す動詞フレーズ、一方、先に登場した(1)(2)(3)の形動詞フレーズは直接「時制」を表わさないことに注意して欲しい。

**(時制を表す動詞フレーズ)**

現在形動詞フレーズ (動詞の現在形に導かれるフレーズ)

過去形動詞フレーズ (動詞の過去形に導かれるフレーズ)

**(時制を表わさない動詞フレーズ)**

原形動詞フレーズ (動詞の原形に導かれるフレーズ)

ing形動詞フレーズ (動詞のing形に導かれるフレーズ)

ed形動詞フレーズ (動詞のed形に導かれるフレーズ)

## 【6】動詞フレーズのバターン

### [1] V感覚の動詞フレーズとは

V感覚の動詞フレーズは、動詞単独か、動詞に副詞や副詞句をともなったものだ。doを例にとると、以下のような表現がこれだ。

"Will this **do**?" - "That'll **do**."

「これでいいでしょうか?」「それでいいでしょう」

### [2] V→O感覚の動詞フレーズとは

V→O感覚の動詞フレーズの特色は、動詞(V)がそれを対象・目的とする名詞を伴い、<動詞+名詞>の形でひとまとまりの意味ある単位を作り上げることだ。このように使われた名詞を目的語(O)と言う。

一般的に言えば、V +somethingやV +someoneなどのパターンとなる。

I **got your letter**.

私はあなたの手紙を受け取りました

矢印をV→Oとしたのは、動詞(V)がそれを対象・目的とする名詞を伴うことを示したものである。

### [3] V→O→O感覚の動詞フレーズとは

V→O→O感覚の動詞フレーズの特色は、動詞(V)がそれを対象・目的とする2つの名詞を伴い、<動詞+名詞+名詞>の形でひとまとまりの意味ある単位を作り上げていることだ。この2つの名詞はいずれも目的語(O)となっていて、一般的に言えば、V +someone+ somethingのパターンとなる。

Will you please **get me the salt**?

塩をとっていただけませんか?

### [4] V←C感覚の動詞フレーズとは

V←C感覚の動詞フレーズの特色は、動詞(V)が形容詞を伴い、<動詞+形容詞>の形でひとまとまりの意味ある単位(動詞フレーズ)を作り上げていることだ。この形容詞を補語(C)と言い、動詞を補って状態を説明することになる。

Your English will **get better**.

あなたの英語はよくなるだろう

矢印をV→Cとしたのは、動詞(V)補って状態を説明する形容詞を伴うことを示したものである。

### [5] V→O←C感覚の動詞フレーズとは

V→O←C感覚の動詞フレーズとは、動詞(V)が目的語(O)と補語(C)を導いて、<動詞+名詞+形容詞>の形でひとまとまりの意味を持つものだ。getを例にすると、イメージとしては、「対象となるものがある状態を得る」、つまり対象におけるある状態への移行を表す。基本的には、この状態を表すことば(補語)には形容詞が使われる。

Get your room clean!

部屋を掃除しなさい

[6] two-word verbsの動詞フレーズとは

これらについては、統一した説明ができないので、個々の説明を見ていただきたい。

How are you getting along?

あなたはお元気ですか？

I am getting along well.

元気にやっています

## take の動詞フレーズ

### 【解説】

put、つまり「あらしめ」されて、ある位置・状態にあるものを、そこから「取る」「はずす」「移す」「持っていく」のがtakeだ。いわばtakeは、「自分の所有にする」ということよりも、「取る」という動作を主にして述べる語だと言える。

言いかえれば、まず手に取って持って行くまでの、「とりかかり」つまり発端の部分がtakeが受け持ち、それをある場所にあらしめる、つまり終局部分がputの受け持ちとなる。

### ■takeされるものは、有形、無形を問わない

takeされるものは、有形、無形を問わない。またtakeするのは手によってだけではなく、口でもよいし、頭の中へtakeすることもできる。「食べる」「飲む」「理解する」などの意味がふされるのもtakeで可能だ。

Did you **take the money**?

あなたは、お金を受け取りましたか?

Did you **take enough food**?

あなたは、十分食べましたか?

You may **take your time**.

時間がかかってもいいですよ

Let us **take a chance**.

とにかくやってみましょう

また、人の言うことを書き取る場合、紙は下に置いてあるから、ことばを聞き「取って」下へ下ろすとと考えると次のような表現となる。

**Take down my words.**

私の言葉を書き取ってください

takeがputの反対の動作を示していることから、「脱ぐ」という意味にも使われる。ドレスに「とっかかって」、「急速離脱」状態にするというこだ。

She quickly **took off her dress**.

彼女はいそいでドレスを脱いだ

She quickly **put on her dress**.

彼女は急いでドレスを着た

### ■「連れていく」「持っていく」の意味も

takeはただ「取る」だけではなく、「取ってからそのとったものと共に動いていく」という意味を表す場合がある。すなわちそれが物なら「運ぶ」となり、またそれが人や動物なら「連れていく」といった意味となる。

Please **take this parcel to the post office**.

どうかこの小包を郵便局に持って行ってください

I will **take you to the zoo**.

君を動物園に連れて行ってやろう

最後にtakeが、私たちの心に関したことを述べる場合をあげておく。

She **took hope from the fact**.

彼女はその事実でホッとした

彼女は、「その事実から希望を得た」ということだ。

## 【takeの動詞フレーズのパターン】

## V感覚

## take+(副詞)

The vaccination didn't **take**.

種痘はつかなかった

## V→O感覚 take+名詞(目的語)

I will **take a bath**.

私は入浴します、風呂に入ります

## V→O→O感覚 take+名詞(目的語)+名詞(目的語)

**Take him this note!**

彼のところへこの書類を届けてください!

## V→O←C感覚 take+名詞(目的語)+形容詞(補語)

I'm going to **take it easy**.

気楽にやるつもりです

## two-word verbs

You **take after your father**.

あなたはお父さんにそっくりだ

## 【takeの動詞変化】

現在形	過去形	原形	~ing形	~ed形
take(s)	took	(to) take	taking	taken

## [VO感覚] take+名詞(目的語)

## 【POINT】

take +名詞(目的語)の動詞フレーズ。

「取る」「はずす」「移す」「持っていく」といった意味を表すのがtakeです。注意したいのは、takeは「自分の所有にする」ということよりも、「取る」という「とっかかり」の動作を主にして述べる語だ。

(1) You can take either book.

どちらの本を持っていってもいいですよ

● You can+原形動詞フレーズ 「あなたは～してもいい」許可

(2) I'll take some chocolate.

私はチョコレートをいただきます

(3) Do I have to take that medicine?

私はその薬を飲まなければなりませんか?

● Do I have to+原形動詞フレーズ? 「私は～しなければなりませんか?」

(4) I make it a rule to take a bath every other day.

私は1日おきに風呂に入ることにしています

● I make it a rule to+原形動詞フレーズ 「私は～することになっている」

(5) He was accused of taking a bribe.

彼は賄賂を受け取って告発された

● He was accused of+ing形動詞フレーズ 「彼は～で告発された」

(6) Let me take a message.

伝言をうけたまわりましょう

● Let me+原形動詞フレーズ 「私に～させてください、私が～しましょう」

(7) Please take a seat!

どうぞお座りください!

(8) Let's take a rest; I'm worn out.

休憩しましょう、私は疲れてしまったよ

(9) Do we have to take a train?

私たちは列車に乗らなければなりませんか?

● Do we have to+原形動詞フレーズ? 「私たちは～しなければなりませんか?」

(10) There's no hurry, take your time!

急ぐ必要はない、ゆっくりやりなさい!

(11) You'll have to take the bus.

あなたはそのバスに乗る必要があるでしょう

● You'll have to+原形動詞フレーズ 「あなたは～する必要があるでしょう」

(12) Which bus should we take?

私たちはどちらのバスに乗るべきですか?

● Should we+原形動詞フレーズ? 「私たちは～するべきですか?」

(13) How long does it take to go there on foot?

そこへは歩いてどのくらいかかりますか?

● How long does it take? 「(時間的に)どのくらいかかるか?」

(14) Take care!

気をつけてください! 行ってらっしゃい!

(15) Take care not to get into trouble!

困ったことにならないように気をつけなさい!

● Take care not to+原形動詞フレーズ 「～しないよう気をつけなさい」

(16) I think I'll take a chance; it's worth trying .

やってみる価値があるから、一か八かやってみようと思います

● I think I'll+原形動詞フレーズ 「私は～しようと思います」

(17) Will you take a cup of coffee?

コーヒーを飲みませんか?

● Will you+原形動詞フレーズ? 「あなたは～しませんか?」

(18) This machine doesn't take five-hundred-yen coins.

この機械は500円硬貨は使えない

(19) Let's take a short cut!

近道をしましょう

(20) Other things being equal, we would like to take Type D.

他の条件が同じなら、Dタイプを取りたいと思います

● We would like to+原形動詞フレーズ 「私たちは～したいと思う」

If other things are equal. → Other things being equal

(21) Who has taken my dictionary?

僕の辞典を持って行ったのは誰だ?

● Who has+ed形動詞フレーズ? 「誰が～しましたか?」

(22) Which bus do I take to go to the airport?

空港へ行くにはどちらのバスに乗ればいいですか?

(23) You may as well take the elevator[lift]

エレベーターに乗ったほうがいいですよ

● You may as well+原形動詞フレーズ 「あなたは～した方がいい」

(24) Take more exercise!

もっと練習をきなさい!

(25) Did you take enough food?

十分食べましたか?

(26) Take a subway!

地下鉄で行きなさい!

- (27) You may as well **take the Yokosuka line**.  
あなたは横須賀線に乗ったほうがいい
- (28) This bottle **takes nearly two liters**.  
このボトルは2リットル近く入る
- (29) **Take care** that you don't lose your passport again!  
二度とパスポートを紛失しないように注意しなさい!  
● **Take care that+節** 「～するように注意しなさい」
- (30) The plane can **take only ten passengers**.  
その飛行機には客は10人しか乗れない

## [VOO感覚] take+名詞(目的語)+名詞(目的語)

## 【POINT】

この動詞フレーズのパターンは、<take+名詞+名詞>の形でひとまとまりの意味ある単位を作り上げています。この2つの名詞はいずれも目的語です。

一般的に言えば、take someone somethingのパターンとなる。

Take this note.

この書類を届けてください(持って行ってください)

↓

Take him this note.

彼のところにこの書類を届けてください

(1) Take him this note.

彼のところにこの書類を届けてください

\* VOO感覚

(2) Let me take you some flowers.

あなたに花を取ってあげましょう

● Let me +原形動詞フレーズ 「私が～しましょう」

(3) Let me take them these beers.

彼らのところにこれらのビールを持っていきましょう

(4) This work has taken me all my time.

この仕事ではずいぶん骨が折れました

\* take all one's time 「時間をとる、骨が折れる」

(5) It took me about ten minutes.

約10分かかりました

● It take +O+ (時間など) 「Oに～(時間などが)かかる」

(6) It took me five hours to drive from here to Tokyo.

車でここから東京へ行くのに私は5時間かかった

● It take +O+ (時間など) +to+原形動詞フレーズ

(7) It didn't take him two years to save up for a new car.

彼は新車を買うお金を貯めるのに2年かからなかった

● It didn't +原形動詞フレーズ 「かからなかった」

(8) It won't take you three days to solve the problem.

あなたはその問題を解決するのに3日かからないでしょう

● It won't +原形動詞フレーズ 「かからないだろう」

(9) It won't take me two days to finish it.

それを終えるのに私は2日かからないでしょう

(10) It took me two weeks to read it.

それを読むのに2週間かかった

● It+過去形動詞フレーズ 「かかった」

(11) It **took me longer** than I thought.

私が考えていたよりも時間がかかった

\* than I thought 「私が考えていたよりも」

(12) **How long** did it **take you** to settle down in Tokyo?

あなたは東京の生活に慣れるまでにどのくらいかかりましたか?

● How long did it +原形動詞フレーズ? 「かかったか?」

## [TWO-WORD]

take after afterの基本的な意味 「後」

「後を追う」

「(子供が親に)似る、そっくりだ」

(1) The guard **took after the thief**, but couldn't catch him.

ガードマンは泥棒の後を追ったが、捕まえることができなかった

● He couldn't+原形動詞フレーズ 「彼は～できなかった」

(2) You **take after your father**.

あなたはお父さんにそっくりだ

take away awayの基本的な意味 「離脱状態」

「引く」「(食器などを)下げる」

(3) If you **take away 4** from 10, you have 6 left.

10から4を引くと、6となる

● If you +現在形動詞フレーズ 「もし、あなたが～すれば」

\* have 6 left 「残った6を有する」

(4) Please **take the dishes away**.

食卓の食器を下げてください

take back backの基本的な意味 「後退」

「返す、取り戻す、撤回する、取り消す」

(5) Excuse me. I **take back** what I've just mentioned.

すみません。今言ったことを取り消します

\* what I've just mentioned 「私が今言ったことを」 whatは関係代名詞

(6) **Take the sugar back**: we don't need it

砂糖を戻してきなさい、私たちはいりません

take down downの基本的な意味 「下方」

「おろす」「書き取る」「取り壊す」

(7) Let me help you **take it down**.

それをおろすのを手伝いましょう

● Let me +原形動詞フレーズ 「私が～をしましょう」

\* help you +原形動詞フレーズ 「あなたが～するのを手伝う」

(8) Will anyone **take down his words**?

誰か彼のことばを書き取ってくれますか?

● Will anyone (please) +原形動詞フレーズ? 「誰が～してくれますか?」

(9) The pavilion was **taken down** after the expo.

パビリオンは博覧会の終了後に取り壊された

**take for** forの基本的な意味 「対象・目的」

「～を-と勘違いする」「間違われる」

(10) Do you **take me for a fool**?

僕をばかだと思っているのか?

(11) To hear you talk, they would **take you for a Japanese**.

あなたが話しているのを聞いたら、彼らはあなたを日本人だと思うでしょう

\* to hear you talk 「あなたが話しているのを聞くと」

\* hear you +原形動詞フレーズ 「あなたが～するのを聞く」

(12) He's often **taken for his brother**.

彼はしばしば兄[弟]と間違えられる

● He's often + ed形動詞フレーズ 「彼はしばしば～される」

**take from** fromの基本的な意味 「起点」

「引く」

(13) You **take six from ten**, four remains .

10から6をひくと4残ります

\* remainは動詞で、「残る」の意味。

(14) We can **take some good pictures from the train windows**.

列車の窓からよい写真が撮れますよ

● We can +原形動詞フレーズ 「私たちは～できる」

(15) You should **take a rest from all that hard work**.

あんなに頑張ったのだから休むべきですよ

● You should +原形動詞フレーズ 「あなたは～すべきです」

**take in** inの基本的な意味 「範囲内」

「取り込む」「招き入れる」

「理解する、だます、小さくする、含む」

(16) **Take in the washing**, will you?

洗濯物を取り込んでくれませんか？

● 命令文、will you? 「～してくれませんか？」

(17) The itinerary **takes in most of the large cities** in Japan.

この旅程には、日本の大都市のほとんどが含まれます

(18) He **took me in** and offered me a cup of tea.

彼は私を招き入れて、お茶を1杯出してくれた

\* offer +人+～ 「人に～を提供する、差し出す、申し出る」

**take off** offの基本的な意味 「急速離脱・中断」

「離陸する」「脱ぐ、はずす、落とす」

(19) The plane is due to **take off** at 4:40 p.m.

飛行機は午後4時40分に離陸する予定だ

● be due to+原形動詞フレーズ 「～する予定だ」

(20) **Take off your shoes** at the door!

玄関では靴を脱いでください!

(21) Don't **take your eyes off the child**!

子供から目を離してはいけない!

**take on** onの基本的な意味 「密着・継続」

「(仕事、責任を)引き受ける、負う」「相手をする」

(22) You should never **take on more** than you can do.

能力以上のものは決して引き受けるべきではありません

● You should never +原形動詞フレーズ 「あなたは決して～すべきではない」

(23) I will **take on the big boy** any time.

私は、いつでもあのガキ大将の相手をしよう

\*any time 「どんなときでも」

**take out** outの基本的な意味 「範囲外」

「持ち出す、連れ出す」

「(保険などに)加入する」

(24) **Take out a life policy!**

生命保険に加入しなさい

(25) I would like to **take you out** for dinner.

あなたを夕食にお連れしたい

● I would like to +原形動詞フレーズ 「私は～したい」

(26) Father **took me out of doors**.

父は私を戸外に連れだした

(27) Sitting all day at the keyboard **takes it out of me**.

一日中キーボードの前に座っているとひどく疲れます

\* **Sitting all day at the keyboard**

「一日中キーボードの前に座っていること」主語となっている。

**take over** overの基本的な意味 「覆う」

「引き継ぐ、(経営を)接收する」

(28) I'll drive the first hour, and then you **take over**, O.K.?

最初の1時間は私が運転するので、その後はやってください

\* **and then** 「そしてそれから」

\* **O.K.?**は、**Is it O.K.?**のこと、「それでいいですか?」 Cf. **All right?**でも可。

(29) **Take this cake over to the children!**

このケーキを子供たちに持って行ってください!

**take to** toの基本的な意味 「到達点」

「恥じる、とりかかる、好きになる」

(30) Everyone **took to her** at the first sight.

誰もが彼女に一目惚れしました

\* **at the first sight** 「一目見て」

現在形では、**takes**となり、これは**everyone**が単数扱いのため。

**Everyone takes to her at the first sight.**

誰もが彼女に一目惚れします

(31) **Take me to an amusement park!**

私を遊園地に連れて行ってください!

(32) Shall I **take you to the station?**

駅までお送りしましょうか?

● **Shall I + 原形動詞フレーズ?** 「～しましょうか?」相手の意向を聞く

**take up** upの基本的な意味 「上方・なし遂げ」

「～を始める、仕事につく」「拾い上げる、持ち上げる」

「((場所や時間)をふさぐ、～がかかる」

**take up with~** 「異性と)親しくなる」

(33) While in Canada, he **took up with a Canadian girl**.

カナダにいる間に、彼はカナダ人の女の子と親しくなった

\* While he was in Canadaの略したもの。

(34) While she was young, she **took up** golf.

彼女は若い頃、ゴルフを始めた

\* While youngとも表現できる。

(35) I'm afraid I've **taken up** a lot of your time.

こんなに時間を取らせてすみませんでした

● I'm afraid (that) I've +ed形動詞フレーズ 「私が～してすみません」

(36) He was **so much taken up** watching TV.

あの人はテレビを見るのに夢中でした

● be so much taken up +ing形動詞フレーズ 「～するのに夢中だ」

-----  
**take with** withの基本的な意味 「付帯」

「(人ならや動物なら)一緒に連れて行く、(物なら)持って行く」  
-----

(37) **Take your child with you!**

あなたと一緒に子供さんを連れて行きなさい

(38) **Take this with you!**

これをお持ちなさい